

井原市教育委員会事務
点検・評価報告書

(平成28年度対象)

平成29年12月

井原市教育委員会

井原市教育委員会委員名簿

(平成29年3月31日現在)

教育長 片山正樹

教育長職務代理者 藤井秀彦

委員 奥田隆夫

委員 佐藤和代

委員 西田友美

目 次

I	教育委員会の事務の点検・評価制度の概要	
1	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	1
2	井原市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方法等について	1
	(1) 点検・評価の目的	
	(2) 点検・評価の対象	
	(3) 点検・評価の方法	
	(4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用	
II	教育委員会の活動状況	
1	教育委員会会議の開催状況	3
2	その他の主な活動	6
III	平成28年度 教育委員会事務事業評価表	
	重点施策Ⅰ 「生きる力」を育む学校づくり（学校教育の充実）	8
	重点施策Ⅱ 生涯学習社会に対応する学習機会の提供	11
	重点施策Ⅲ 生涯学習環境の整備と充実	14
	重点施策Ⅳ 市民と行政の協働による生涯学習の推進	15
	重点施策Ⅴ 豊かな感性を育むまちづくり（スポーツ活動の充実）	17
	重点施策Ⅵ 地域文化を体感できる活力あるまちづくり （芸術・文化の振興と文化財の保存・活用）	18

I 教育委員会の事務の点検・評価制度の概要

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、これを公表することが義務付けられた。

併せて、点検及び評価を行うにあたり、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされた。

この報告書は、同法の規定に基づき、井原市教育委員会が行った点検・評価の結果について報告するものである。

2 井原市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方法等について

(1) 点検・評価の目的

点検・評価は、上記地教行法第26条の規定に基づき、教育委員会が教育長以下事務局を含め、教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、重点化等を図るべき分野を明確化するなど、市民が求める質の高い教育を提供することに資するとともに、住民に対する行政の説明責任を充実させ、教育行政に対する市民の信頼性の向上を図ることを目的としている。

(2) 点検・評価の対象

ア 対象期間

平成28年度を対象期間とする。

イ 対象事務

地教行法に規定する教育委員会の権限に属する事務を対象事務とする。

(3) 点検・評価の方法

「平成28年度教育行政重点施策」の施策・内容・実施事業について達成度により評価した。

・達成度（A～E）

A・・・成果を上げ、目的を達成している。

B・・・目的をほぼ達成している。

C・・・目的は達成していないが、前年度より改善され一定の成果をあげている。

D・・・目的は達成しておらず前年度より悪化しており、十分な成果があがっていない。

E・・・実績を未把握。

(4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用

地教行法第26条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため「井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会」において、教育委員会事務局が行った点検・評価（自己評価）の結果に対し、第三者評価委員会委員として委嘱した学識経験者5名から所見・助言を得た。

第三者評価委員会委員の選任にあたっては、本市の「教育現場」への理解度の深さを前提に、教育行政現場における実務経験及び各分野における専門性等を考慮し委嘱した。

○井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会委員

氏 名	役 職 等
山 本 嵩 之	元県立井原高等学校長
河 合 裕 子	井原市社会教育委員
山 木 誠 一	井原市体育協会 副会長
原 田 繁	井原市文化協会 副会長
三 宅 興太郎	元井原市教育長

《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 教育委員会の活動状況

1 教育委員会会議の開催状況

井原市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月1回の定例会のほか、必要に応じ臨時会を開催している。

この会議において、教育長と4名の教育委員が教育行政の運営の基本方針や教育委員会の規則の制定改廃、教科書の採択など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告等を受けている。

このほか、学力向上や不登校防止に係る諸問題、教育委員会会議概要の公開などを協議案件として、事務局との質疑応答や意見交換、教育委員間での協議を行った。

平成28年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりである。

期 日	場 所	附 議 案 件 等
平成28年 4月定例会 (28.4.21)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・井原市教育委員会職員の人事異動について ・高屋公民館運営審議会委員の委嘱について ・稲倉公民館運営審議会委員の委嘱について ・青野公民館運営審議会委員の委嘱について ・井原市スポーツ推進委員の委嘱について ・井原市立図書館運営規則の一部を改正する規則について ・井原市立図書館協議会委員の任命について ・井原市美星天文台運営委員会委員の委嘱について
5月定例会 (28.5.23)	市役所 503 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・井原市立学校評議員の委嘱について ・県主公民館運営審議会委員の委嘱について ・木之子公民館運営審議会委員の委嘱について ・荏原公民館運営審議会委員の委嘱について ・西江原公民館運営審議会委員の委嘱について ・井原公民館運営審議会委員の委嘱について ・出部公民館運営審議会委員の委嘱について ・芳井公民館運営審議会委員の委嘱について ・井原市特別支援教育就学指導委員会委員の委嘱について ・井原市社会教育委員の委嘱について ・井原市中央公民館運営審議会委員の委嘱について ・井原市公民館主事の任命について

6月定例会 (28.6.24)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度井原市一般会計補正予算（第1号）について ・大江公民館運営審議会委員の委嘱について ・野上公民館運営審議会委員の委嘱について ・井原市奨学資金借受者の決定について ・第4期井原市教育審議会への諮問について ・井原市教育審議会委員の委嘱について
7月臨時会 (28.7.11)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・井原市立西江原幼稚園教諭の不祥事について
7月定例会 (28.7.21)	古代 まほろば館 2階研修室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度岡山県学力・学習状況調査の結果について ・井原市幼稚園教諭の処分について ・平成29年度使用井原市立高等学校教科用図書採択について ・井原市幼稚園教諭採用試験委員会委員の委嘱について
8月定例会 (28.8.17)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度岡山県学力・学習状況調査の結果の公表について
9月定例会 (28.9.26)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会委員の任命について ・平成28年度井原市一般会計補正予算（第2号）について ・井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会委員の委嘱について ・井原市文化財保護審議会委員の委嘱について ・教育長職務代理者の指名について
10月定例会 (28.10.25)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度全国学力・学習状況調査の結果について ・平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の公表について
12月定例会 (28.12.20)	市役所 401 会議室 402 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度井原市一般会計補正予算（第3号）について ・平成28年度末井原市教職員人事異動方針について ・井原市市費負担教員の任用等に関する規則の一部を改正する規則について ・公民館主事の任命について ・平成29年度全国学力・学習状況調査への参加について
平成29年 2月定例会 (29.2.17)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・大江公民館運営審議会委員の委嘱について ・教育行政重点施策について ・平成28年度 卒業式について

3月定例会 (29.3.22)	市役所 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度井原市一般会計補正予算（第4号）について ・平成29年度井原市一般会計予算（教育費関係）について ・上野・河合奨学金支給基金条例を廃止する条例について ・井原市生涯学習推進本部設置要綱の一部を改正する要綱について ・平成29年度教育行政重点施策について ・井原市芳井公民館明治分館長の任命について ・井原市芳井公民館共和分館長の任命について ・平成28年度末井原市教職員人事異動の内申について
--------------------	-------------	--

2 その他の主な活動

教育委員は、教育委員会の会議に出席するほか、適宜、各種会議・関係行事へ出席している。
平成28年度におけるその主な活動は次のとおりである。

月 日	会議・研修会等	場 所
平成28年 4月 8日 ～12日	入学（園）式	市立高校 1校 市立小学校 13校 市立中学校 5校 市立幼稚園 13園
4月22日	岡山県都市教育委員会教育長協議会第1回定例会	高梁市役所
5月 9日	市町村教育委員会教育長等人権教育連絡会	岡山県総合教育センター
5月10日 13日 24日	新任管理職表敬訪問	矢掛町 浅口市 高梁市 新見市 里庄町 ほか
5月19日 ～20日	第68回全国都市教育長協議会定期総会・研究大会	徳島県徳島市
6月 1日	高梁川流域連盟総会	倉敷国際ホテル
7月12日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会	くらしき健康福祉プラザ
7月15日	第1回教育審議会	文化財センター
7月22日	岡山県都市教育委員会教育長協議会臨時会	メルパルク岡山
7月27日	7月期教育長連絡会議	ピュアリティまきび
8月19日	井原市教育講演会	芳井生涯学習センター
8月24日	教育審議会生涯学習部会（第1回）	井原市役所
8月29日	教育審議会学校教育部会（第1回）	井原市役所
10月 2日	第54回井原市民体育祭	井原運動公園陸上競技場
10月12日	岡山県市町村教育長意見交換会	ピュアリティまきび
10月13日	岡山県都市教育委員会教育長教委議会	新見市文化交流館
10月18日	教育審議会学校教育部会（第2回）	井原市役所
10月18日	教育審議会生涯学習部会（第2回）	井原市役所
10月19日	荏原幼稚園研究会	荏原幼稚園
10月20日 ～21日	中国地区都市教育長会定期総会・研究協議会	倉吉市

10月26日	10月期教育長連絡会議	岡山教育事務所
11月 2日	教育委員会事務事業第三者評価委員会	井原市役所
11月 7日	第2回教育審議会	井原市役所
11月 7日	教育審議会学校教育部会（第3回）	井原市役所
11月 7日	教育審議会生涯学習部会（第3回）	井原市役所
11月 9日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会研修会	ライフパーク倉敷
11月16日 ～17日	井原市教育委員県外視察	長崎県長崎市
平成29年		
1月14日	青野小学校 落成式	青野小学校
1月16日	教育審議会学校教育部会（第4回）	井原市役所
2月 1日	教育審議会生涯学習部会（第4回）	井原市役所
1月20日	岡山県都市教育委員会教育長協議会 第3回定例会	備前市
1月25日 ～ 26日	岡山県都市教育委員会教育長協議会 教育行政視察	広島県尾道市
1月28日 ～29日	第37回まなびフェスタ in いばら	アクティブライフ井原
3月 1日 ～17日	卒業（園）証書授与式	県立高校 2校 私立高校 1校 市立高校 1校 市立小学校 13校 市立中学校 5校 市立幼稚園 13園

平成28年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

I 「生きる力」を育む学校づくり（学校教育の充実）

施策	目的	取組・内容	成果と課題	自己評価		第三者評価	
				評価	課題への対応	評価	評価委員コメント
1. 確かな学力の育成							
(1) 幼児教育の充実	「生涯にわたる人格形成の基礎を培うこと」を目指す幼児教育充実のために、教職員の資質の向上や、校種間連携を促進する。	幼稚園教育要領に基づく保育実践の充実のための研修を継続して行った。 平成28年度は、特に3歳児教育を導入するにあたっての幼稚園教職員研修の充実を図った。また、新規事業として保幼小連携事業を始め、市内全保育園・幼稚園・小学校が参加した「保幼小接続推進会議」を6月1日と2月13日に2回開催した。 【主な実施事業】 ○幼稚園教育要領に基づく保育実践の充実 ○幼稚園教職員研修の充実 ○幼稚園における3歳児教育の拡大 ⑧ 保幼小連携事業	3歳児教育を新たに開始した幼稚園は無かったが、3歳児教育の重要性について、理解を深めることができた。 保幼小接続推進会議を開催し、接続カリキュラムの必要性について保幼小間で共通理解を図ることができ、次年度へ向けての方向性を示すことができた。	A		A	
(2) 確かな学力と個の可能性を伸ばす教育の推進	次代を担う子ども達が、これからの社会において必要となる「生きる力」「確かな学力」を育む学校づくりを推進する。	確かな学力の育成のために、平成28年度も小学校において35人以下学級を継続させ、言語活動の充実、きめ細やかな指導、教職員研修の充実を図るとともに、全小学校区において地域土曜学習サポート事業を推進した。 平成28年度の新規事業としては、ALTと連携し、様々な活動を通して「生きた英語」を学べる1泊2日のオールイングリッシュキャンプを実施した。市内の中学生9名、ALT5名、英語担当教諭4名が参加した。 【主な実施事業】 ○放課後学習サポート事業（13小学校、3中学校） ○地域土曜学習サポート事業（13小学校） ○全国標準学力検査の実施 ○学力向上対策事業 ○いばらっ子イノベーション35推進事業（市費講師配置による35人以下学級編制）西江原小 ○いばらっ子伸びる学力支援事業（非常勤講師8人配置、小1支援員配置） ○英語授業の充実（ALT6人の活用） ○デジタル教科書の活用推進 ○片山科学賞基金運営事業 ⑧ イングリッシュキャンプの開催	新規事業のイングリッシュキャンプは、少人数での開催となったが、教師側の指導力向上や、参加生徒のアンケートからも実施の効果が見られた。今後は、参加生徒数の拡大と活動内容の精選を進め、さらなる生徒の英語力向上につなげていきたい。	A		A	
(3) 高校教育の充実	学校、家庭及び地域社会、関係諸機関との信頼に基づく連携のもとに、次代を担う子どもたちが、これからの社会において必要となる「確かな学力・豊かな心・健やかな体」などの「生きる力」を育む学校づくりを推進する。	生徒の基礎学力の充実やキャリア教育の充実を目指して、平成28年度の年間の取り組みを企画し、計画どおり進めることができた。 インターンシップや事業所見学、進路講演会などの進路行事は、地域の企業や施設からの協力を得て実施することにより、生徒の進路意識の向上につながった。また、校内を会場として、漢字能力検定、食物調理技術検定、パソコンスピード認定試験を実施し、多くの合格者を出した。卒業生は、志望する進路を100%実現することができた。 新しい取組として、主権者教育の推進のため、井原市選挙管理委員会の協力のもと、全校生徒対象に模擬選挙を実施した。実際に候補者を立て、演説を聴き、実際の選挙で使用される投票箱に一票を投じた。参議院議員選挙や岡山県知事選挙の前には、投票の流れ、期日前投票、選挙運動に関する注意などについてまとめたリーフレットも配布した。 【主な実施事業】 ○基礎学力の充実 ○キャリア教育の充実 ○各種検定・資格の取得推進 ○主権者教育の推進	それぞれの取り組みについて、前年度の反省をもとに改善を加えながら実施することができた。主権者教育については、模擬投票以外の実施内容についても検討を進めたい。	A		A	
(4) 特別支援教育の推進	障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う。	学習支援員は、原則として通常学級に在籍する特別支援の必要な児童生徒の支援を行った。 6時間×200日 30人（高小2、大小3、稲小1、県小1、木小2、荏小1、西小2、野小1、青小1、井小2、出小3、美小2、芳小2、高中1、木中2、井中2、美中1、芳中1） 巡回相談員1名を配置し、保育園、幼稚園・小学校・中学校への巡回相談を実施した。 【主な実施事業】 ○学習支援員の配置と活用（30人） ○巡回相談員の配置と活用（1人）	学習支援員の配置による成果は大きい。幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な支援ができています。特別支援の必要な児童・生徒数増に伴い、今後学習支援員増員の必要性がある。 専門家（巡回相談員）を学校園へ派遣することによって、適切な指導助言を受け、特別支援教育に関する指導の改善を行うことができた。	A		A	
(5) 教師力の向上	次代を担う子ども達が、これからの社会において必要となる「生きる力」「確かな学力」を育む学校づくりを推進する。	若手・中堅教員研修を、教員の指導力向上を図るため近隣市町と協力して開催した。矢掛町で若手研修を8月2日に行い、井原市で中堅研修会を8月18日に行った。 研究指定校による研究発表会では、荏原幼稚園、西江原小学校、美星中学校において、研究成果を発表した。 教育講演会は、「ひとは ひとによって ひととなる ～未来を担うひとづくりにおけるライフキャリア教育の魅力～」をテーマに、島根県益田市教育委員会社会教育課長 大畑伸幸先生を講師に8月19日に教育講演会を実施した。 【主な実施事業】 ○若手・中堅教員研修の充実 ○研究指定校による研究発表会（荏原幼、西江原小、美星中） ○井原市学校教育研究会研修事業の実施 ○教育講演会の開催 ○定期及び要請による学校訪問 ○ICT支援員の配置と活用（2人） ○教師業務アシスタントの配置（3人）井原小、出部小、井原中	若手・中堅教員研修の実施は、教員の指導力向上教員の指導力向上とともに、教員間のネットワークづくりにも効果的であった。 研究指定校による研究発表会では、各校園の児童生徒の実態に基づき、幼稚園教育要領、学習指導要領の指導内容を踏まえた学習指導法や、キャリア教育の研究を進めることができた。	A		A	

平成28年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

I 「生きる力」を育む学校づくり（学校教育の充実）

施策	目的	取組・内容	成果と課題	自己評価		第三者評価	
				評価	課題への対応	評価	評価委員コメント
2. 豊かな心の育成							
(1) 心の教育の推進	次代を担う子ども達が、これからの社会において必要となる「生きる力」「豊かな心」を育む学校づくりを推進する。	ふるさと井原魅力発見事業では、児童生徒を対象に、田中美術館見学、古代文化財センターでの体験学習、星の郷ふれあいセンターでの宿泊研修を実施し、ふるさと井原の魅力を発見し、自信と誇りを持たせるとともに、豊かな体験を通じた道徳性の育成を図った。 スポーツふれあい交流事業「夢の教室」では、全小学校の5年生を対象に夢をかかなるために努力した日本のトップアスリート「夢先生」として派遣し、夢をもつことの素晴らしさやそれに向かって努力することの大切さ等を学ばせた。 【主な実施事業】 ○情報モラルに関する指導の充実 ○ふるさと井原魅力発見事業（小6田中美術館見学等、小4宿泊体験） ○スポーツふれあい交流事業「夢の教室」（小5） ○地域教材を活用した道徳教育の推進 ○学校司書の配置と読書活動の推進 ○人権教育担当者研修会の開催 ○キャリア教育実践モデル開発事業（美星小中） ○長期宿泊体験（荏原小）	ふるさと井原魅力発見事業では、各校工夫や協力をして、豊かな体験活動を行った。活動前には目的について事前指導を行い、活動後は振り返りを行い自分たちの成長を確認していった。スポーツふれあい交流事業「夢の教室」では、児童は本物のトップアスリートと出会うことで、夢をもつことの素晴らしさやそれに向かって努力することの大切さを学べた。	A		A	
(2) 生徒指導の充実	いじめや不登校等の問題の解決に向けて、専門家や関係機関との連携を強化し、相談体制の充実を目指す。	落ち着いた学校づくり支援事業（Q-U検査）では、教職員の研修を行うとともに、年2回、児童生徒を対象に、学級内での子ども同士の人間関係についてアンケート調査を実施し、いじめや不登校の早期発見及び未然防止を図るとともに、学級崩壊を予防し、よりよい学級集団づくりを推進した。 不登校児童生徒の適応指導対策事業では、いじめや不登校等の問題の解決に向けて、専門家や関係機関との連携を図った。 【主な実施事業】 ○落ち着いた学校づくり支援事業（Q-U検査） ○ネットとスマホ利用改善の推進 ○不登校児童生徒の適応指導対策事業（スクールカウンセラー配置事業）（スクールサポーター配置事業（中学校））（訪問カウンセリング事業）（問題行動対策コーディネーター配置事業）（登校支援員配置事業）（不登校対策実践研究事業） ○いじめ問題対策連絡協議会の開催	落ち着いた学校づくり支援事業（Q-U検査）では、教職員の研修を行い、いじめや不登校、学級崩壊の予防等よりよい教育実践のために効果的に活用した。不登校児童生徒の適応指導対策事業では、不登校問題の他、生徒指導上の諸問題に対応することができた。	A		A	
3. 健やかな体の育成							
(1) 基礎体力・運動能力の向上	次代を担う子ども達が、これからの社会において必要となる「生きる力」「健やかな体」を育む学校づくりを推進する。	健康づくり優良児童生徒表彰では、健康づくりに努力している児童・生徒の表彰を行い、健康に対する関心と意欲を高めた。学校保健会において表彰を行った。小学校10人、中学校1人 計11人を表彰。1月19日（木）審査会開催。 いばらっ子生活リズム向上プロジェクトでは、市内の保・幼・小・中・高の幼児児童生徒を対象として、生活習慣の向上・改善に取り組み、子どもの意欲や学力・体力の向上、情緒の安定を図ることを目的に実施した。主テーマを「よく動く」と設定し、環太平洋大学中尾教授との連携を進め、各校園での取り組みも支援した。 【主な実施事業】 ○体力づくり推進事業 ○健康づくり優良児童生徒表彰 ○いばらっ子生活リズム向上プロジェクト	いばらっ子生活リズム向上プロジェクトの取り組みにより、生活習慣に対する関心が高まり、「よく動く」子どもの育成に向けた各校園での実践に広がりが見られるようになった。	A		A	
(2) 保健・安全教育の推進	次代を担う子ども達が、これからの社会において必要となる「生きる力」「健やかな体」を育む学校づくりを推進する。	防災教育の推進では、学校の危機管理マニュアルや防災計画の確認とともに、定期的な避難訓練等の実施について指導した。 交通安全教育の充実では、各校・園交通安全教育実施（年間2回程度実施）した。 防犯意識の高揚と啓発活動では、各校・園防犯教育実施（年間1~2回実施）した。 小児生活習慣病予防健診の実施では、小学校4年生320人、中学校1年生294人を対象に実施した。 薬物乱用防止教室等の推進では、各校において、性教育・エイズ教育及び薬物乱用防止教室を実施した。 【主な実施事業】 ○防災教育の推進 ○交通安全教育の充実 ○防犯意識の高揚と啓発活動 ○小児生活習慣病予防健診の実施（小4、中1） ○薬物乱用防止教室等の推進	各校の実態に合わせた計画のもと、防災意識・交通安全教育・防犯意識の高揚に効果があった。 小児生活習慣病予防健診の結果により、生活習慣の改善が認められる児童・生徒が見受けられ、効果があった。	A		A	
(3) 食育の推進	学校において積極的に食育に取り組み、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるようにする。	笑顔の食育参観日（朝食パワーアップ事業）の実施では、保健センターから栄養士が幼稚園に行き、食育指導と、調理実習から会食までを、園児と保護者を対象に行った。全園1回の実施。 食育担当者研修会を6月10日に開催した。食育推進について栄養教諭が説明し、各校園の食に関する指導に係る全体計画をチェックした。また、荏原幼稚園が、食育に関する事例発表を行った。 【主な実施事業】 ○笑顔の食育参観日（朝食パワーアップ事業）の実施（全幼） ○栄養教諭による食育の推進 ○学校給食における地産地消の推進 ○学校給食における食物アレルギー危機管理マニュアルの作成 ○食育担当者研修会の開催 ○食育講座の開催	笑顔の食育参観日（朝食パワーアップ事業）では、朝食をきちんと取ることの必要性について幼児・保護者に啓蒙できた。 学校給食における食物アレルギー危機管理マニュアルの作成では、県の危機管理マニュアル策定を受けての作成とした。	A		B	施策「(3)食育の推進」全体的には目的をほぼ達成しているが、食物アレルギー危機管理マニュアル作成を次年度に延期したため、「B」評価とした。

平成28年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

I 「生きる力」を育む学校づくり（学校教育の充実）

施策	目的	取組・内容	成果と課題	自己評価		第三者評価	
				評価	課題への対応	評価	評価委員コメント
4. 学校・家庭・地域社会の連携							
(1) 家庭や地域の教育力の向上	学校、家庭及び地域社会、関係諸機関との信頼に基づく連携のもと、次代を担う子ども達が、これからの社会において必要となる「確かな学力・豊かな心・健やかな体」などの「生きる力」を育む学校づくりを推進する。	<p>学校支援ボランティアの活用各校において、放課後等の学習支援、各教科、道徳、総合的な学習の時間等における学習支援ボランティアを募集し、児童生徒の学習活動の支援を行った。</p> <p>学校支援地域本部事業では、大江小、野上小、井原小、西江原小、県主小、木之子小、荏原小、美星中、芳井小・中において、学習支援、環境整備、学校行事の支援、子どもの安全確保などが地域住民によって行われた。</p> <p>教育広報誌（ともなび）は、10月、3月の2回発行した。発行部数各回6,000部。</p> <p>10月には、主に学力向上の取り組みについての内容を掲載した。3月には、主に保幼小接続事業についての取り組みについての内容を掲載した。</p> <p>【主な実施事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校支援ボランティアの活用 ○学校支援地域本部事業の推進 ○教育広報誌（ともなび）の発刊 	<p>学校支援ボランティアの活用では、小中学校においては、それぞれの学校で積極的に活用でき、成果を上げることができた。</p> <p>学校支援地域本部事業の推進では、地域連携担当者と地域コーディネーターが連携し、地域住民による学校支援活動を行うことができ、他の地域のモデルとなっている。</p> <p>教育広報誌（ともなび）の発刊は、情報発信の効果があつた。学校での学力向上の取り組みや保幼小接続事業についての取り組み伝えるとともに、家庭でも生活リズムを整え学習環境を整えるよう依頼ができた。</p>	A		A	
(2) 開かれた学校づくりの推進	学校、家庭及び地域社会、関係諸機関との信頼に基づく連携のもと、次代を担う子ども達が、これからの社会において必要となる「確かな学力・豊かな心・健やかな体」などの「生きる力」を育む学校づくりを推進する。	<p>開かれた学校づくり推進事業では、学校が家庭や地域社会と連携を図り、ともに子どもたちを育成するための事業を委託した。（小学校13校、中学校5校、市立高校1校。）</p> <p>学校評価・学校評議員制度の積極的活用では、幼・小・中・高で各学校の取り組みについて、学校評価を実施し、成果と課題を明らかにした。</p> <p>学校ホームページの充実では、学校ホームページを開設し、積極的に学校の取組の紹介を行った。全ての小・中・高等学校で運用した。</p> <p>【主な実施事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開かれた学校づくり推進事業の実施 ○学校評価・学校評議員制度の積極的活用 ○学校ホームページの充実 	<p>開かれた学校づくり推進事業の実施では、小学校では地域の人との交流学习や伝統文化の継承、中学校では地域に根ざしたボランティアや郷土学習に活用された。</p> <p>学校評価・学校評議員制度の積極的活用では、幼・小・中・高で学校評価（自己評価、学校関係者評価）を実施し、市教委へ報告書を提出した</p> <p>学校ホームページの充実では、すべての小・中・高等学校でホームページを立ち上げ、随時更新を行い、情報公開に努めている。</p>	A		A	

平成28年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

II 生涯学習社会に対応する学習機会の提供

施策	目的	取組・内容	成果と課題	自己評価		第三者評価	
				評価	課題への対応	評価	評価委員コメント
1. 家庭教育機能の向上							
(1) 子育て支援体制の整備	学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業や家庭教育に関する学習機会を拡充するとともに、生涯学習の支援、社会教育活動の拡充に努める。	平成28年度は、学校、家庭、地域の連携による教育支援活動促進事業や家庭教育に関する学習機会を拡充に取り組み、おおむね計画どおりに進めることができた。 特に、子育てサポーターは平成28年度に57人が登録しており、スキルアップ講座の実施により、サポーターの養成と資質の向上を図ることができた。 【主な実施事業】 ○子育て支援課、健康医療課、図書館等との連携・協力 ○井原子育てネットワーク協議会との連携 ○子育てサポーターの養成及び活動支援（派遣託児の実施）	関係部署との連携により事業を進めることができた。子育てサポーターのスキルアップに重点を置いた講座を開催し、サポーターの養成と資質の向上を図ることができた。	A		A	
(2) 子育てに関する学習機会の拡充	人権の問題や高度情報化等にもなう現代的課題に適切に対応していくため、市民が気軽に参加できる講座や学習機会を設け、積極的な情報提供に努める。	平成28年度は、子育て講座や子育てに関する講演会の開催、子育てイベントの実施など、市民が気軽に参加できる講座や学習機会が開催された。 特に、「親育ち応援学習プログラム」（岡山県）を活用したワークショップ型の学習会を年間15回開催でき、延べ人数で306名の方が参加され、親同士の意見交換と子育てについての不安の解消と理解を深める場を設けることができた。 また、子育てイベント「ほっぶすてつぷおやこdeぼん」を開催したところ、子どもと保護者併せて180名の参加があり、参加者が全員で楽しむことができるイベントで、親子のふれあいの場を設けることができた。 【主な実施事業】 ○子育て各期における課題別子育て講座の開催 ○親育ち応援学習プログラムを活用と推進 ○子育て支援講演会の開催 ○子育てイベントの実施 ○家庭教育学級（中央・各地区）、幼児教育学級、婦人学級等の支援	市民が気軽に参加できる講座や学習機会を設け、積極的な情報提供ができた。学習会の進行を担うファシリテーターの養成とスキルアップは今後も継続していきたい。	A		A	
2. 社会教育における学習機会の提供							
(1) 子どもの学習生活環境の整備充実	子どもの学習生活環境の整備により、子どもの健全育成や学力や学習意欲の向上を図る	放課後子ども教室では、各地区で工夫を凝らした様々な事業を実施し、子どもの健全な成長や学力と学習意欲の向上を図ることができた。 また、第3次子ども読書活動推進計画に基づく絵本作り講座やブックスタート事業、セカンドブック事業など本に対する興味関心と家庭での読書活動をさらに推進することができた。 特に、子ども・若者育成支援事業として、「みらいのひかりをつなげプロジェクト」を実施し、中高生を中心とした若者の社会参画の機会を提供することができた。 【主な実施事業】 ○学校・家庭・地域の連携協力事業の実施 ・放課後子ども教室事業 ・学校支援地域本部事業 ・学習支援「地域未来塾」の実施 ○第3次子ども読書活動推進計画に基づく事業の実施 ○いばらっ子生活リズム向上プロジェクト事業の実施 ○子ども・若者育成事業の実施 ○笑って健康元気アップ事業の実施 ○学びのポイントラリーの推進 ○子ども情報誌「でんしょぼと」の発行	学校、家庭、地域の連携により子どもの学習生活環境の整備充実が図られるとともに、子どもの健全育成と学力や学習意欲の向上を図ることができた。 学びのポイントラリーは参加者が少ない。	B	学びのポイントラリーの参加者（認定証交付者）が少ない（2人）。平成29年度から、参加者増の対策として、参加意欲を高めるための記念品を進呈することとした。	B	
(2) 青少年の健全育成	子どもが、心身ともに健やかに成長していくよう、学校、家庭、地域の連携による教育支援活動推進事業や家庭教育に関する学習機会の拡充を図る。	井原市連合少年団協議会等の活動支援のほか、各事業を通じて、子どもたちに様々な体験を経験でき、健やかな成長を促すことができた。 特に、夏のボランティア体験事業では、子どもと高齢者や障害のある人との交流を通じて、社会福祉への理解を深める機会を提供することができた。 また、青少年育成センター事業や教育相談事業では、各種団体、機関等との連携により、市民への意識の啓発や気軽に相談できる場の提供ができた。 【主な実施事業】 ○井原市連合少年団協議会の活動支援 少年団体等指導者養成講座・ジュニアリーダー養成講座、少年レクリエーション大会の実施 ○美星っ子づくり協議会の活動支援 ○友好親善都市児童交流事業（魚津市・大田原市）の実施 ○新成人の主体的な取組による成人式の実施 ○地区青少年を育てる会等の活動支援 ○夏のボランティア体験事業の実施 ○青少年育成センター事業、教育相談室事業の推進	井原市連合少年団等の活動を通して、青少年の健全育成が図られ、活動促進の有効な助成を行うことができた。	A		A	
(3) 成人期の生涯学習	市民が、生きがいのある充実した人生を送れるように、生涯学習の支援、社会教育活動の拡充に努める。	成人の生涯学習の支援や学習機会の拡充を図るため、成人大学講座を開設し、幅広い年代の方に様々な学習の場を提供することができた。 【主な実施事業】 ○成人大学講座の開設 年間2講座を開設（延べ参加者数58人）	子育てや男女共同参画社会など身近なテーマで他の講座と共同開催するなど、内容を工夫し、幅広い年代の方に様々な学習の場を提供することができた。	A		A	

平成28年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

II 生涯学習社会に対応する学習機会の提供

施策	目的	取組・内容	成果と課題	自己評価		第三者評価	
				評価	課題への対応	評価	評価委員コメント
(4) 高齢社会と学習活動	市民が、生きがいのある充実した人生を送れるように、生涯学習の支援、社会教育活動の拡充に努める。	高齢者を対象とした各種講座や学習会を実施し、様々な学習の場を提供することができた。 【主な実施事業】 ○高齢者学級の開催 寿大学院 10回 延べ参加者2,025人 芳寿大学 9回 延べ参加者1,007人 長寿学級 8回 延べ参加者1,107人 むつみ会 12回 延べ参加者 212人	例年多くの申込者があり、講座の内容も可能な限り要望を取り入れたものとする事ができた。	A		A	
3. 多様な学習課題への対応と学習機会充実							
(1) 情報化に対応した情報教育の基盤整備	人権の問題や高度情報化等にもなう現代的課題に適切に対応していくため、市民が気軽に参加できる講座や学習機会を設け、積極的な情報提供に努める。	情報化に対応するため、インターネットやSNSの入門講座のほか、ワードやエクセルなどの使い方についての講座を開講した。 【主な実施事業】 ○パソコン講座の開催 全5講座（ネット・SNS入門、Word入門、Excel入門、Excel中級、デジカメ写真入門）を実施 受講申込者数は延べ58人。（1講座平均12人・定員17人） 1講座は、1回2時間を5回開催	インターネットやSNSの急速な普及に伴い、興味関心のある人が参加され基本的な使い方などを学ばれた。今後も引き続いて、魅力ある講座づくりに努める。	A		A	
(2) 人権が尊重されるまちづくりの推進	人権の問題や高度情報化等にもなう現代的課題に適切に対応していくため、市民が気軽に参加できる講座や学習機会を設け、積極的な情報提供に努める。	多くの市民の方が人権問題に対する学習ができるよう、「くらしと人権講座」の開講をはじめ、市内の各団体等でも人権教育研修会を開催されており、出前講座での人権教育も実施した。 井原市ふれあいセンターでは、教養講座やふれあい交流活動などを通じて人権啓発に努め、利用者の増加している。 【主な実施事業】 ○くらしと人権講座の開設 ○諸学級、諸団体等での人権学習・人権啓発の推進（PTA、地区、企業等） ○市長部局との連携による人権教育、人権啓発活動、男女共同参画社会づくりの推進 ○井原市ふれあいセンターでの交流活動等の推進	人権に関する講座や学習会の開催を通じて、人権について考える学習機会を提供することができた。また、出前講座を活用して効果的に人権啓発を行うことができた。	A		A	
(3) 天文講座の開催	多様な学習課題に対応するため、学習機会を設け、積極的な情報提供に努める。	一般市民向けの「いばら天文講座」を、11月、12月、2月に実施した。延べ参加者数は65人で、前年実績54人より増加した。 【主な実施事業】 ○天文講座の開催	天文台職員による2回の天体の話のほか、岡山天体物理観測所長による浅口市の新しい望遠鏡についても学ぶことができた。	A		A	
4. 芸術・文化活動の振興							
(1) 交流を生み出す芸術・文化の振興	市民が、生きがいのある充実した人生を送れるように、生涯学習の支援、社会教育活動の拡充に努める。	文化講演会とコンサートは、実行委員会において講師や出演者の選定を行うなど、市民ニーズに合った、質の高い講演会やコンサートが開催されている。 また、優秀映画鑑賞会は、井原会場のほか、芳井会場でも開催することにより、鑑賞機会を増やし、子ども映画会では、成人大学講座との合同開催という新しい試みもあり、集客数が増加した。 【主な実施事業】 ○文化講演会、コンサートの開催 文化講演会 11/20 齋藤 孝 来場者236人 コンサート 3/4 清水ミチコ 来場者484人 ○優秀映画鑑賞会、子ども映画会の実施 優秀映画鑑賞会 5回（1会場）5作品 延べ520人 （アクティブライフ井原4回、芳井生涯学習センター1回） 子ども映画会 2回（1会場）2作品 延べ288人（アクティブライフ井原）	上映作品に関しては、昨年度アンケートや世間の話題作を参考に、作品を厳選したこともあり、来場数は格段に増加した。子ども映画会では、実施回数も増えたことで、延べ600人以上の集客があった。	A		A	
5. 学習ニーズの把握							
(1) 学習ニーズや意識の把握	市民のニーズに沿った学習環境を整備するとともに、学習成果の発表の場でもある生涯学習の集い等の開催を通して、一層の普及啓発に努め、学びの意識を高めていく。	事業実施の都度簡易アンケートを実施、今後の事業展開の目安としている。 実施したアンケート結果を参考に、できるだけ事業内容がニーズに沿ったものとなるよう計画している。 【主な実施事業】 ○各種事業開催時のアンケート調査の実施	アンケート結果を次年度の事業を計画する際の参考とし、参加者のニーズに合った事業の実施につながっている。	A		A	

平成28年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

II 生涯学習社会に対応する学習機会の提供

施策	目的	取組・内容	成果と課題	自己評価		第三者評価	
				評価	課題への対応	評価	評価委員コメント
6. 総合的な啓発事業の開催							
(1) 学習意欲を高揚するイベント等の開催	市民のニーズに沿った学習環境を整備するとともに、学習成果の発表の場でもある生涯学習の集い等の開催を通して、一層の普及啓発に努め、学びの意識を高めていく。	1月28日と29日の2日間、生涯学習の集い「まなびフェスタ in いばら」を開催した。大勢の参加がある恒例の行事となっており、生涯学習推進の一助となっている。 また、地区公民館において、文化祭等を開催し、作品展示や舞台発表等を行った。 【主な実施事業】 ○生涯学習の集い、文化祭等の開催	まなびフェスタや市の文化祭だけでなく、地区公民館において、学習成果の発表の場や体験する機会を提供することにより、参加者の学習意欲を向上させるとともに、来場者の生涯学習に取り組むきっかけづくりにもなっている。	A		A	
7. 意識を高める啓発活動の推進							
(1) CATVや広報誌等による啓発	市民のニーズに沿った学習環境を整備するとともに、学習成果の発表の場でもある生涯学習の集い等の開催を通して、一層の普及啓発に努め、学びの意識を高めていく。	各種の講座やイベントについて、啓発活動の一環として、市広報・CATV・お知らせくん・チラシ等を活用し、適時広報を行った。 また、生涯学習関連の情報を掲載した「生涯学習カレンダー」の運用に努めた。 【主な実施事業】 ○生涯学習に関する啓発番組や記事の掲載	市広報やチラシはもとより、CATV、お知らせくん、市のホームページ等、各種媒体を通じて、タイムリーな情報発信を行うことができた。また、生涯学習カレンダーの運用により、情報端末さえ持っていれば、市民が生涯学習課以外の部署による講座や学習会を含めた行事予定を一覧で確認できるようになった。	A		A	

平成28年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

Ⅲ 生涯学習環境の整備と充実

施策	目的	取組・内容	成果と課題	自己評価		第三者評価	
				評価	課題への対応	評価	評価委員コメント
1. 生涯学習関連施設の整備と機能の充実							
(1) 生涯学習関連施設の整備と機能の充実	市民の多様な学習の場となる生涯学習関連施設を、計画的に整備充実するとともに、地域住民が気軽に集い学びながら交流できる開かれた公民館や学習施設を目指す。	各施設の計画的な整備と機能の充実により、利用環境の改善や利便性の向上を図ることができた。 特に、美星天文台では、イベントや研修会等を通して天文台利用者の知識・技術の向上を図ることができた。さらに、4D2U導入効果により、昼間の入館者数は23年度以来最多となった。 また、図書館では、3館をネットワークで結び、予約等利用者の利便性の向上を図るとともに、計画的な蔵書の充実を図り蔵書数に見合う書架の増設を行った。市広報、ホームページ、図書館便り、各種ポスター・ちらし、お知らせくんを活用したPRで利用促進を図った。 【主な実施事業】 ○星の郷ふれあいセンターの施設整備と利用促進 ○アクティブライフ井原の施設・備品整備と利用促進 ○芳井生涯学習センターの施設・備品整備と利用促進 ○井原市ふれあいセンターの整備と利用促進 ○美星天文台・星空公園の整備と利用促進 ○図書館の整備と機能の充実 ○新刊図書及び図書館事業のPRと利用促進	利用者の利便性や快適な施設の利用環境を提供することができた。 美星天文台については、一層の利用促進を図るため、館内展示の更新を検討することが必要である。	A		A	
2. 公民館の整備と機能の充実							
(1) 公民館の整備と機能の充実	市民の多様な学習の場となる生涯学習関連施設を、計画的に整備充実するとともに、地域住民が気軽に集い学びながら交流できる開かれた公民館や学習施設を目指す。	地区公民館は、まちづくりや福祉事業の拠点施設として活用されており、各地域で特色のある事業が展開された。 また、地区公民館の集会用テント、エアコン、冷蔵庫、会議用テーブル等の更新のほか、木之子公民館の白壁の修繕、県主公民館分室のガスエアコンの修繕、高屋公民館の収納棚設置等を行った。 【主な実施事業】 ○地域の特性を活かした公民館活動の推進 ○笑って健康元気アップ事業の実施 (地区公民館の企画による「笑いの講座」の開催) 芳井公民館 8/30 参加者300名 荏原公民館 12/3 参加者140名 青野公民館 1/8 参加者350名 ○パソコン講座等の支援(貸出用パソコンの活用) 62件 延べ387台の貸出 ○地区公民館の施設・設備の整備充実	地区公民からの要望に基づき、備品や施設の修繕を行い、利用者の安全・安心の確保に努めるとともに、利便性の向上に努めた。各地区公民館の活動が年々活発になっており、今後も継続していく必要がある。	A		A	
3. 生涯学習関連情報の収集と提供の充実							
(1) 生涯学習ガイド等の充実	だれでも必要な時に学習情報を取得できるよう、生涯学習ガイドの発行や生涯学習情報の一元化等、迅速かつ継続的な情報収集と提供に努める。	生涯学習ガイド「まなびすと」を作成し、地区公民館や生涯学習関連施設等へ350部作成し配付した。 内容も、生涯学習情報だけでなく、文化・スポーツ等幅広い情報の掲載に努めた。 子ども情報誌「でんしよぼと」は年3回各6,000部作成し、市内保幼小中学生、教職員、公共施設に配布している。井原に関連する施設や児童生徒が関心のある情報について発信している。 【主な実施事業】 ○生涯学習ガイド「まなびすと」、子ども情報誌「でんしよぼと」等の作成	生涯学習や文化・スポーツ、また、各地区の公民館活動などを掲載することにより、幅広い情報提供をすることができた。	A		A	
(2) メディア等を活用した情報提供の充実	だれでも必要な時に学習情報を取得できるよう、生涯学習ガイドの発行や生涯学習情報の一元化等、迅速かつ継続的な情報収集と提供に努める。	生涯学習情報の一元化策として、生涯学習カレンダーを運用し、機会あるごとに、ホームページの更新、CATVの出演等を行い、市広報やお知らせくんを通じ、行事の紹介や広報活動を積極的に行った。 【主な実施事業】 ○市ホームページでの生涯学習カレンダーの活用 ○HP、Facebook、CATV、広報いばら、お知らせくん等の活用	生涯学習課をはじめとした複数部署のイベント情報を一元化することにより、効率的でタイムリーな情報発信を行うことができた。	A		A	

平成28年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

IV 市民と行政の協働による生涯学習の推進

施策	目的	取組・内容	成果と課題	自己評価		第三者評価	
				評価	課題への対応	評価	評価委員コメント
1. 生涯学習基本計画に基づく施策の推進							
(1) 生涯学習基本構想・基本計画に基づく施策の推進	市民の様々なニーズを的確に把握した魅力ある施策や、社会情勢の変化や新たな課題等に的確に対応するため、生涯学習基本構想・基本計画に基づく各種施策を実施する。	「生涯学習社会に対応する学習機会の提供・生涯学習環境の整備と充実・市民と行政の協働による生涯学習の推進・目標値の設定と計画の推進」を念頭に、家庭・地域・学校との連携を含め事業を実施した。 【主な実施事業】 ○第2次生涯学習基本計画（改訂版）に基づく施策の推進	第2次生涯学習基本計画に基づき、様々な課題に対して、ライフステージに応じた学習機会の提供等を行うことができた。	A		A	
(2) 社会教育委員会の機能の拡充強化	市民の様々なニーズを的確に把握した魅力ある施策や、社会情勢の変化や新たな課題等に的確に対応するため、生涯学習基本構想・基本計画に基づく各種施策を実施する。	社会教育委員会を年3回（6月、12月、3月）開催した。 また、岡山県及び備中地区社会教育委員連絡協議会の実施する研修会をはじめ中四国地区研究大会へも積極的に参加した。 【主な実施事業】 ○社会教育委員の研修等の充実	社会教育委員会が報告会にならないよう事前に資料を送付し、出来るだけ意見をいただくよう努めた。3月の委員会においては、平成29年2月に開館した高梁市図書館の視察研修を行った。	A		A	
2. 生涯学習をすすめる市民組織づくりと活動支援							
(1) 市民組織づくりと活動支援	市民と行政が協働でまちづくりを進めていくための学習講座として開催している「いきいきいばら出前講座」の充実や「まなびめいと」の活動支援等に積極的に取り組む。	事務局として「まなびめいと」のすべての事業に協力し、人的支援を行った。 【主な実施事業】 ○アクティブライフ井原「まなびめいと」等の活動支援 ・いろは塾（①ホテルを見る会、②おいも農家体験、③木工教室、④親子でスイーツ作り） ・少年少女合唱団による夏休み体験 ・ジュニア絵画クラブ主催の油絵制作、写生教室、まなびフェスタへの作品出展 ・少年少女合唱団によるきのこセイモンでの慰問コンサートや合唱フェスティバルなどの行事への参加活動 ・ジュニア弦楽奏団によるムーンライトコンサートやラスバみずきへの慰問 ・あたごっち大作戦、まなびフェスタへの出店 ・各種サークル等の活動支援、そのほか年間を通じて生涯学習情報誌の発行など。	事業の企画から実施まで、活動の支援は十分にできた。小学生を中心に写生旅行や夏休み企画事業などを主催することで、課外学習の機会を提供し、各種イベント等へも積極的に参加した。 また、いろは塾による自然体験活動により子どもたちが自然に触れ親しむ機会を提供し、自然への理解や興味関心を深めた。子どもゆめ基金の助成を、受けたため例年より余裕をもった活動ができた。	A		A	
3. 生涯学習推進担当の体制整備							
(1) 生涯学習推進担当の整備	市民の様々なニーズを的確に把握した魅力ある施策や、社会情勢の変化や新たな課題等に的確に対応するため、生涯学習基本構想・基本計画に基づく各種施策を実施する。	社会教育主事講習を平成22年度に1名、24年度に1名、26年度に1名、28年度に1名受講させ、社会教育主事有資格者の増に努めている。 【主な実施事業】 ○計画的な社会教育主事の育成	計画的な育成に努めた。	A		A	
4. 生涯学習リーダー等の養成							
(1) 人材活用の拡充	様々な分野で活躍している指導者や地域に埋もれている人材の発掘、地域活動で大きな役割を担う社会教育関係団体等の育成を行う。	井原市ふるさと人材バンクには、スポーツ部門34人、文化部門12人、生涯学習部門13人の計59人の登録があり、スポーツ部門では体験講座や指導者講座、文化部門では井原市史を読む会、歴史講座、ジュニア指導、また、生涯学習部門では、子どもを対象にした体験講座や教室、イベント等の場で指導をしていた。 【主な実施事業】 ○ボランティア活動の推進	生涯学習課を窓口としての利用がない。 また、スポーツ部門ではスポーツ推進委員制度も始まっており、今後も人材確保や利用率の促進に向けたPRを積極的に行うことはもとより、人材バンク制度の在り方について検討し、より良い制度への改善を図る。	B	備後圏域での連携による「びんご人材ネットワーク」の利用促進を図り、より広域での人材活用を目指す。	B	
5. 社会教育関係団体等の育成支援							
(1) 成人団体や青少年団体の育成・支援	様々な分野で活躍している指導者や地域に埋もれている人材の発掘、地域活動で大きな役割を担う社会教育関係団体等の育成を行う。	成人団体や青少年団体の活動促進のための支援を実施した。 【主な実施事業】 ○地区青少年を育てる会、連合少年団、女性協議会、PTA連合会の育成・支援 ・補助金の交付 井原市女性協議会 840千円 井原市PTA連合会 140千円 井原市連合少年団協議会 300千円 地区青少年を育てる会等 780千円（60千円×13地区） 井原市手をつなぐ親たちの会 130千円 友好親善都市交流事業費 1,030千円 井原警察署管内少年警察協働員連絡協議会 100千円 井原市人権教育協議会 75千円	活動促進のための有効な助成となった。	A		A	

平成28年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

IV 市民と行政の協働による生涯学習の推進

施策	目的	取組・内容	成果と課題	自己評価		第三者評価	
				評価	課題への対応	評価	評価委員コメント
6. 出前講座の充実							
(1) 出前講座の拡充と充実	市民と行政が協働でまちづくりを進めていくための学習講座として開催している「いきいきいばら出前講座」の充実や「まなびめいと」の活動支援等に積極的に取り組む。	平成28年度は、出前講座を94回実施し、受講者数は2,453人であった。 【主な実施事業】 ○いきいきいばら出前講座の充実と利用促進	出前講座の実施により、市民はもとより、行政職員の生涯学習に対する意識の向上が図られている。	A		A	
7. 民間団体等との協働による事業の推進							
(1) 民間団体等との協働による事業の推進	市民と行政が協働でまちづくりを進めていくための学習講座として開催している「いきいきいばら出前講座」の充実や「まなびめいと」の活動支援等に積極的に取り組む。	「まなびめいと」の事務局として事務的な運営を支援した。 少年少女合唱団は、合唱フェスティバル・まなびフェスタへの出演、きのこセイモンで慰問コンサートを開催。、ジュニア弦楽奏団は、まなびフェスタに出演、ムーンライトコンサートを開催。さらに、少年少女合唱団とジュニア弦楽奏団とのジョイントでミニコンサート'16を開催した。ジュニア絵画クラブは、夏の企画事業として「井原市の偉人平櫛田中の彫刻を描こう！」を、秋の写生旅行として「機関車を描きに行こう！」を開催し、後者は井原市役所1階市民サロンで作品を展示した。 また、講座の周知を兼ねて合唱・ジュニア弦楽では夏休みに「夏休み体験」を開催し、歌や楽器に触れてもらう機会を設けるとともに、まなびフェスタでは絵画クラブによる作品展示や合唱・弦楽による舞台発表を披露した。 美星天文台では、空宙ガールズミーティングの開催に併せて、昼間の4D2U連続上映を行った。 【主な実施事業】 ○まなびめいと（少年少女合唱団・ジュニア絵画クラブ・ジュニア弦楽奏団）の活動支援 ○宙ガールイベントへの協力	事業の企画から実施まで、まなびめいととの活動支援は十分にできた。小学生を中心に写生旅行や夏休み企画事業などを主催することで、課外学習の機会を提供し、各種イベント等へも積極的に参加した。子どもゆめ基金の助成を受けたことにより、例年より余裕をもった活動ができた。	A		A	

平成28年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

V 豊かな感性を育むまちづくり（スポーツ活動の充実）

施策	目的	取組・内容	成果と課題	自己評価		第三者評価	
				評価	課題への対応	評価	評価委員コメント
1. 生涯スポーツの振興	健康で心豊かな生活を送ることができる社会の実現を目指すため、身近な場でスポーツに親しむことができる環境を整備する。	いばら生き生きクラブは、会員が減少傾向にある中、「家族割」の特典を設けるなど会員増加に取り組んだ。 また、県の補助事業「県内ぐる〜っと筋力アップ運動促進事業」を活用し、「大人の楽トレ教室」を開催した。高齢者を対象とした筋力アップトレーニングを主題とした取り組みで好評を得た。 スポーツ推進委員の報酬を条例化し、各自の資質と技術の向上に取り組める環境を整備した。地域スポーツ教室にスポーツ推進委員を派遣し、ニュースポーツの普及を図った。 【主な実施事業】 ○いばら生き生きクラブの自立支援 ○県内ぐる〜っと筋力アップ運動促進事業の実施 ○スポーツ推進委員による地域スポーツ教室の実施 ○ニュースポーツのPRと備品の貸出	スポーツ推進委員の資質の向上及び地域スポーツ教室の周知を図ることにより、地域スポーツ教室の年間開催回数が昨年の6回から13回となるなど、地域にスポーツを普及することができた。	A		A	
2. 競技スポーツの振興	体育協会等との連携を取りながら、ハイレベルな大会に接する機会を提供するとともに、スポーツ指導者の確保やジュニアからの育成支援を充実させ、全国レベルのスポーツを育てるための環境整備を図る。	指導者の育成では、例年の審判講習会に加え、指導を行う上で必要となる技術を習得するため、熱中症対策や救急法の講習会を開催した。 「陸上競技のまち 新体操のまち」で井原市の元気を発信していることから、興譲館高等学校陸上競技部や井原高等学校新体操部へ財政的支援を行い、競技団体の育成を図った。新体操については、ジュニアの支援も行った。 日独スポーツ少年団同時交流事業は、臨時事業として体育協会で引き受けた。短期間であったが、民泊5家庭をはじめ各種団体の協力を得て円滑に事業が実施できた。 全市的行事では、新体操フェスティバルで青森大学を招待することができ、多くの市民が高レベルの演技に触れることができた。 【主な実施事業】 ○スポーツ施設の活用 ○指導者の育成 ○団体の育成支援 ○日独スポーツ少年団同時交流事業 ○全市的行事としての取り組み ○特に優秀な成績を収めた個人又は団体及び指導者等の表彰・顕彰（スポーツ表彰） ○体育功労者・団体及び優秀選手・団体の表彰・顕彰（体育協会表彰）	体育協会では、団体競技を中心に大会開催が難しい状況にある中、前年と同規模で大会が開催されるなど、競技スポーツの振興に取り組むことができた。 指導に必要な技術を習得する講習会を開催するなど指導者の育成も図った。	A		A	
3. 健康づくり・体力づくり・仲間づくりとしてのスポーツの振興	市民一人ひとりが年齢や体力、興味に応じてスポーツに取り組むことができるよう、自主的にスポーツに取り組むきっかけづくりとなる場の提供やスポーツの意義の啓発を図る。	スポーツ教室は、平成27年度に比べ、弓道教室、テニス教室を再開することができたが、男子の新体操教室の受講者がなかった。 グラウンド・ゴルフ場の利用促進事業は、教育委員会主催で、年間4大会を開催し、864人の参加があった。井原市グラウンド・ゴルフ協会等の実施分を含めて、15大会3,593人の参加があった。 井原・魚津スポーツ交流では、相互にマラソン大会への選手派遣があり、市民レベルでのスポーツ交流ができた。 「市民スポーツの日」では、スポーツ体験ブースや健康ブースを設置し、市民にスポーツに親しむ場を提供するとともに、スポーツの意義等について啓発を図った。 【主な実施事業】 ○市民体育祭の開催 ○各種スポーツ教室の開催（スポーツ人口の拡大） ○グラウンド・ゴルフ場の利用促進事業の開催 ○井原・魚津スポーツ交流 ○「市民スポーツの日」事業の開催	スポーツ教室では、復活した教室もあるが、参加がなく開催を見送った教室もある。全体的に受講者が減少傾向にあり、受講者を確保するための取り組みが必要である。	B	指導者と調整し、参加しやすい日程を設定するほか、積極的に周知を行う。また、競技団体に依頼し、新しい教室の開設を努める。	B	
4. 文化・スポーツ振興協会との連携強化	井原市の文化及びスポーツの普及振興のために、多彩な事業の推進を図り、もって、人間性豊かな地域づくりに寄与することを目的に設置された協会との連携を強化する。	スポーツの普及振興に寄与する事業として、全国健康マラソン井原大会兼岡山県ハーフマラソン選手権大会と晴れの国岡山駅伝競走大会選手派遣事業に助成を行った。 激励事業では、スポーツ競技者等で、全国大会や中国大会に出場する選手に激励金を交付し、競技者の意欲向上に努めた。 【主な実施事業】 ○スポーツの普及振興に寄与する事業及び活動を行う個人・団体への助成事業 ○スポーツ競技に功績をあげた者への激励事業	駅伝競技を通して地域の連帯感を高めることを目的に開催している晴れの国岡山駅伝競走大会では、中学、高校、一般の男女9名でチームを編成し、25チーム中5位の成績を上げることができた。	A		A	

平成28年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

VI 地域文化を体感できる活力あるまちづくり（芸術文化の振興と文化財の保存活用）

施策	目的	取組・内容	成果と課題	自己評価		第三者評価	
				評価	課題への対応	評価	評価委員コメント
1. 交流を生み出す芸術・文化の振興							
(1) 芸術文化活動の活性化	市民が優れた芸術・文化にふれあう機会を拡充するとともに、芸術・文化団体の育成を図るなど、市民の芸術・文化活動を促進する。	平成28年度は、優れた芸術・文化にふれあう機会の提供や芸術・文化団体の育成支援、市民の芸術・文化活動の促進を目的に諸事業に取り組んだが、おおむね計画どおり事業を進めることができた。 特に、スクールコンサートでは、市内在住のアーティストを取り上げ、子どもたちにその演奏の素晴らしさやトランペットという楽器を身近に感じてもらうことができた。 また、美術館の「棟方志功展」では、8,000人を超える入館者があり、企画展でも来館者の関心が高いテーマの展示を行い、年間入館者が15,000人を超えることができた。 文化施設の利用状況は、施設により増減があるものの、堅調に推移した。 【実施事業】 ○文化協会、各文化グループ等の育成・支援 ○文化祭、文化教室での創作活動の推進 ○スクールコンサートの開催 ○井原市文学賞の開催 ○親月会の開催 ○田中美術館企画展・特別展の開催 ○田中美術館友の会の支援 ○市民ギャラリーの利用促進 ○市民茶室の利用促進	文化協会等文化団体は、会員が減少傾向にあるものの、活発に活動しており、補助金の交付や事務局支援を通じてその活動の下支えができた。文学賞や親月会、美術館特別展等、文化イベントについても、前年の反省をもとに見直しを行いながら実施し、例年と変わらない参加者数があった。	A		A	
(2) 芸術・文化を通じた多様な交流の推進	市民が芸術・文化活動に主体的に参画することにより、市内・市外、老若男女を問わず、交流の輪が広がるよう、多様な芸術・文化イベントを開催する。	美術館の「棟方志功展」では、8,000人を超える入館者があり、企画展でも来館者の関心が高いテーマの展示を行い、年間入館者が15,000人を超えることができた。 市史、町史の活用では、文化財センター講座や図書館での市史を読む会、出前講座等で活用に努めたほか、国内の大学、研究機関等へPRし、在庫の減少に努めた。 なお、市史等の書籍の売り上げは、293,000円であった。(H27 164,500円) 【実施事業】 ○田中美術館企画展・特別展の開催(再掲) ○井原市史・芳井町史・美星町史等の活用	美術館の特別展は、著名な作家の展覧会であったこともあり、秋田県や山口県等遠隔地からの来館があり、盛況であったと考える。企画展では、アンケート調査に基づき来館者のニーズを把握しながら、所蔵品を展示することができた。	A		A	
(3) 文化施設の整備と特色づくり	市民が芸術・文化活動に主体的に参画することにより、市内・市外、老若男女を問わず、交流の輪が広がるよう、芸術・文化活動の拠点づくりを進める。	美術館所蔵作品の修復では、平瀬田中ゆかりの作家の木彫作品2点及び絵画2点を修復した。(事業費1,944,000円) また、楷の木ライトアップ事業では、LEDスポットライト4基で田中苑正面の楷の木を10月28日から11月20日までライトアップした。(事業費 567,000円) 【実施事業】 ○田中美術館所蔵作品の修復 ○田中苑楷の木ライトアップ事業	所蔵作品の修復では、絵の具が剥落したり、軸装が破損したりした状態であったが、修復したことにより展示の幅が広がることとなった。 ライトアップでは、資材の再利用、直営による撤去等により経費の圧縮に努めた。紅葉の期間が長かったことから、観光客の目を楽しませることができた。	A		A	
2. 文化財の保存と活用							
(1) 文化財・歴史的資源の保存・活用	あらゆる文化財の保存を計画的に進め、文化財保護意識と郷土愛を育み、先人が守り伝えた文化遺産の積極的な活用を図る。	文化財センター、芳井歴史民俗資料館では、テーマを定めて企画展・特別展を開催するとともに、文化財センター講座、歴史講座を開催し、文化財保護、歴史的資料の普及啓発に努め、来館者、受講者ともに堅調であった。 (文化財センター利用者数 4,636人、芳井歴史民俗資料館入館者数 1,346人) また、県の中世城館総合調査をふまえた考古学講座の開催、文化財の県指定に係る申請書類等の作成支援を行ったほか、市指定文化財「薬師如来坐像」(美星町高澤寺)の修復事業に補助金を交付し、文化財の保存に努めた。 (指定文化財保護費等補助金交付額 1,257,000円) 【実施事業】 ○文化財保護審議会の開催 ○文化財センターの活用 ○文化財センター企画展の開催 ○歴史講座の開催 ○歴史人物紹介事業の実施 ○出前講座の推進 ○歴史民俗資料館の活用 ○歴史民俗資料館特別展・企画展の開催 ○星の郷民具伝承館の活用 ○椋澤遺跡公園の管理・活用	文化財センター、芳井歴史民俗資料館の展示、講座ともに堅調な利用があったが、今後も魅力的な展示、魅力的な講座メニューの開発に努めたい。 また、調査や資料作成等で支援を続けていた、野上町千手院の「薬師如来坐像」が県の重要文化財に指定されたことは、大きなニュースであった。	A		A	
(2) 伝統芸能や祭りの保存・活用	市内に伝わる伝統芸能が、時代の変遷や少子高齢化により、次の時代に継承が困難となっていることから、記録映像を保存し、伝統文化の継承に資する。	市内に伝わる伝統芸能5種類の映像を収録し、DVDを作成した。200枚作成し、市内小・中・高等学校や社会教育施設、近隣自治体に配布した。(事業費 2,786,400円) また、県指定の伝統芸能「渡り拍子」の保存会の活動を支援した。 【映像を収録した伝統芸能】 ▽三原の渡り拍子(芳井) ▽種の渡り拍子(芳井) ▽早雲踊り(荏原) ▽鳥羽踊り(県主) ▽道祖踊り(西江原) 【実施事業】 ○伝統芸能記録映像DVDの制作と公開 ○伝統芸能の保存・継承(渡り拍子保存会の活動支援)	文化財保護審議会委員や継承団体の協力で、記録映像の収録、DVDを作成することができた。収録団体では、今回の収録をきっかけに、与一まつりの古典芸能祭で踊りを披露されという、思わぬ事業効果があった。	A		A	

平成28年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

VI 地域文化を体感できる活力あるまちづくり（芸術文化の振興と文化財の保存活用）

施策	目的	取組・内容	成果と課題	自己評価		第三者評価	
				評価	課題への対応	評価	評価委員コメント
3. 文化・スポーツ振興協会との連携	文化・スポーツ振興協会の機能を活用し、市民に優れた文化・芸術にふれる機会を提供するとともに、文化・芸術の分野で活躍する市民を顕彰する。	文化功労者への激励では、「第28回全国高等学校情報処理競技大会」や「二科展」等5大会で7人に激励金を交付し、その功績を称えた。 また、協会の助成金を活用して、スクールコンサート、井原市文学賞を実施することができた。 【実施事業】 ○文化功績者への激励事業 ○スクールコンサートの開催（再掲） ○井原市文学賞の開催（再掲）	スクールコンサートでは、地元在住のトランペット奏者を紹介することができ、文学賞では昨年同様の応募があり、文芸作品の魅力を伝える一助となった。 文化功労者は、スポーツ功労者と異なり、把握が困難な面があるが、激励金の交付対象となっている各種大会、展覧会等の情報を収集し、入賞者の把握に努めた。	A		A	